

キッズコーナー

小学生、中学生に読んでもらいたい記事をおせています。読めない字があったら、おうちの人に教えてもらってね。

わたしたちの身近な文化財

鈴木遺跡

鈴木遺跡は、後期旧石器時代の地層である赤土の中に、この時代の石器が一番古いところから一番新しいところまでほぼ途切れなく、それも4万点以上も見つかり、当時の人たちがどんな道具を作ったり、使ったりして暮らしていたのか、その移り変わりが詳しく分かる遺跡です。

後期旧石器時代とは、今からおよそ3万8千年前から1万6千年前までの約2万2千年間のことです。日本では縄文時代より前で、気の遠くなるような大昔です。このころは、氷河時代と呼ばれる時代で、今のように植物や動物を育てて食べ物にするのではなく、自然の中から生活に必要なあらゆるものを手に入れていました。当時の人たちは、1か所に住み続けるのではなく、少人数のグループで生活し、まわりの食べ物を取りつくすと違う場所へと移動していき暮らしていたようです。この時代には、今はもっと東から流れ出している石神井川が、鈴木小学校の校庭や南側の住宅地の中央付近から流れ出していました。この場所は、小平のあたりでは珍しく水があり、植物や動物が豊かなので、当時の人たちにと



(明治15年の地図に見る鈴木遺跡の場所)

っては、飲み水だけでなく、食べ物も手に入る、とても暮らしやすい所でした。

鈴木遺跡は、以前は川の源流部だった場所にあること、黒曜石という石でできた石器や石斧と呼ばれる石器が数多く見つかったこと、礫群と呼ばれる石が集まった調理場のあとがたくさん見つかったことから、この時代の人

ちにとって中心地としての役割を果たしていたと考えられています。

黒曜石は火山の活動からできた自然のガラスで、この時代のほかの遺跡を比べて、鈴木遺跡は黒曜石が見つかる割合が飛びぬけて高いのですが、黒曜石は火山から離れた鈴木遺跡の近くでは手に入るものではありません。黒曜石のとれる場所から来たグループの人が、黒曜石をもっていないグループの人と鈴木遺跡で黒曜石を分け合ったり、交換したりしていたのかもしれない。

また、鈴木遺跡からは22個の石斧が見つっています。石斧は、木をきりたおしたり大型の獣(オオツノシカやナウマンゾウ)の太い骨を打ち割ったりするのに使われる大きくて重い石器です。日本全体でも後期旧石器時代の初めごろにわずかしこ見つかりません。

後期旧石器時代の初めごろにしか大型の獣がいなかったことから、石斧がたくさん見つかった鈴木遺跡というのは、日本列島最初のころの日本人のいくつものグループの人たちが力を合わせて狩りをして、大きな獲物を石斧で解体して分けあい、それぞれの場所に礫群を作って料理をして食べていた様子が想像される遺跡なのです。

このように、鈴木遺跡は日本列島ではるか昔に営まれた人々の暮らしを知るために欠かせない遺跡だと言えるのです。

そして、鈴木遺跡は、日本という国の歴史を正しく知って学び、研究するためにはなくてはならない大切な遺跡なのです。



(黒曜石の原石)



(石斧)

子どものスポーツ習慣の定着を促進する取組

小学校でアルティメット体験授業を行いました

令和2年11月から12月にかけて、小平第三小学校、学園東小学校、上宿小学校の3校で子どものスポーツ習慣の定着を促進する取組として「アルティメット体験授業」を行いました。

アルティメットは、学校の授業ではあまり見かけない新しい競技で、フライングディスクを投げて、落とさずパスをつなぎ、チームで協力してゴールをめざすスポーツです。

講師として、日本フライングディスク協会から日本代表選手の方を招き、基本のパスやキャッチの練習、遠くに投げられたディスクを走ってキャッチする練習、そしてフェイントで守備をかわす練習などを行い、色々な動きを教わりました。

みんな初心者でしたが、授業の中でめきめきと上達して、最後には試合もできるほど上手になりました。

また、アルティメットの特徴として「審判がない」という点があります。このため、選手たちは自分自身でルールを守り、試合の後には敵味方関係なく輪になって「スピリットサークル」という反省会をして、上手にできなかったことやお互いの良かった点を伝えます。こうした競技の特徴から、子どもたちは競技の技術に加え、フェアプレー精神も学ぶことができるスポーツです。どのチームからも積極的な発言があり、短時間の授業の中で成長していく姿が見られました。

子どものスポーツ習慣の定着を促進する取組として、令和3年度はパラリンピックの正式種目になっている「ボッチャ」の体験授業を行う予定です。

みなさんも、色々な新しいスポーツに挑戦してみたいはかがでしょうか。

(文化スポーツ課)



(試合の様子)



(スピリットサークル(反省会))



(練習の様子)



なかまちテラスティーンズ委員会

作家・梨屋アリエさんとの交流会

2月4日(木)に、作家の梨屋アリエさんと市内の学校に通う中学生・高校生との交流会がリモートで開催されました。この交流会は、なかまちテラスティーンズ委員会の活動の中で、中学生・高校生が同じ世代に読んでほしい本を選ぶ「ティーンズ委員会大賞」に、梨屋アリエさんの著書「きみの存在を意識する」が選ばれたことがきっかけで開催されました。梨屋アリエさんからは、大賞となった作品を書くきっかけや、テーマとなった学習障がい、セクシャルマイノリティなどを通して読者に伝えたかったことなどのお話を直接伺うことができ、とても貴重な体験ができました。これからもなかまちテラスティーンズ委員会はさまざまな活動に取り組みます。

小平市 平櫛田中彫刻美術館

企画展示「彫刻の彩り」

平櫛田中の彫刻作品を彩る美しい彩色は、彫刻家の平野富山をはじめとする作家たちの仕事に支えられています。

展示会では、作品の彩色に携わった作家と平櫛田中との交流を彫刻作品や資料によって紹介します。

と き 5月30日(日)まで

開館時間 午前10時～午後4時
※なるべく午後3時30分までに入館してください。
休館日 火曜日(5月4日(火))は開館し、5月6日(木)は休館します。
観覧料 一般…300円、小・中学生…150円※駐車場をご利用の方はご相談ください。
問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎042(341)0098



初公開(六羨歌)

学校給食センターの建替えが始まります

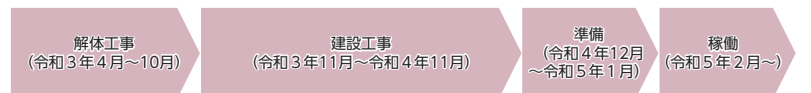
～新センターは令和5年2月から稼働予定～

学校給食センターは、建設から38年が経過し、老朽化が進んでいることから、PFI手法(*)により建替えを行います。

このたび、株式会社小平市学校給食サービスと事業契約を締結し、令和3年度から工事を開始します。現学校給食センターの敷地で建替えを行うことから、建替え期間中は代替給食(弁当給食)を提供します。新センターは令和5年2月から稼働を予定しており、手作りで温かい、おいしい給食を目指していきます。

*PFI(Private Finance Initiative)手法は、民間の資金や経営能力・技術力を活用して、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を一貫して行い、効率的・効果的に整備する公共事業の手法

学校給食センター建替えスケジュール予定



問合せ 学校給食センター ☎042(345)2821